

令和6年度研修 評価

研修名	在宅看護（入退院支援）研修会 全日程				
領域	訪問看護	会場	新潟県看護研修センター	受講料	会 員：8,800円 非会員：26,400円
対 象	募集数(20人)応募数(12人)参加数(12人)会員数(10人)非会員数(2人) 修了者 11人				
日 時	令和6年5月23日（木曜日）～11月9日（土） 9：30～15：30 または 16：30				
ねらい（目標）	1. 地域連携に必要な知識と支援システムの実際を学び実践に活かすことができる 2. 療養者及び家族が安心して入退院できる支援方法を学び実践に活かすことができる				
講 師	1 井上 智代 新潟大学大学院保健学研究科 准教授 1 中野 美佳 訪問看護ステーションふくふく 管理者 緩和ケア認定看護師 2 白倉 透規 医療法人立川メディカルセンター立川総合病院 入退院支援部門 看護主任 慢性心不全看護認定看護師 2 岡田 智子 医療法人恵生会南浜病院 保健師・看護師 3 中野 美佳 訪問看護ステーションふくふく 管理者 緩和ケア認定看護師 3 阿部 行宏 山の下クリニック 院長 4 宇都宮宏子 在宅ケア移行支援研究所 宇都宮宏子オフィス				
内容・方法	○講義 1日5または6時間 講義、グループワーク、演習 ○施設実習 調整した施設において、オリエンテーション、同行訪問、まとめ				
結 果	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px; float: left; margin-right: 10px;">           評価基準：            ①参加数が募集数の70%以上            ②研修内容の理解度（できた、ほぼできた）80%以上            ③自己課題の達成度又は研修目標（知識技術）の習得度（できた、ほぼできた）80%以上            ④アンケートの意見         </div> ○参加者割合 60.0% 【達成・未達成】 ○アンケート結果 ・理解度 99% 【達成・未達成】 ・自己課題の達成度または研修目標（知識・技術）の習得度 99% 【達成・未達成】 ○受講者の意見 ・地域ケアシステム、地域での医療を知り看護職に求められる役割を理解できた。 ・GWを通じて日頃感じていること、問題解決方法の情報共有ができ理解が深まった。 ・訪問看護の実際、役割を知ることができた。在宅ケアを受ける療養者と家族について理解できた。 ・在宅看護と病院看護の違いを学ぶことができた。外来看護、病棟看護に活かしていきたいと思った。外来・病棟・訪問看護の連携が重要であると再認識した。 ・訪問看護実習が参考になった。 ・事例がわかりやすかった。興味深くきけた。 ・看護師がいつも行っているコミュニケーション、対話、傾聴こそACPであるということを理解できた。				

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ACP、意思決定支援、訪問看護の緩和ケアについて理解できた。</li> <li>・自分の看護を見直すことができ、自身の課題に活かせそうだと感じた。</li> <li>・地域連携看護師としてどのように病棟にフィードバックすればよいのか、少しずつ明確化していきたい。</li> <li>・患者を生活者としてとらえ、生活情報を具体的に収集する事、本人の希望を尊重し自宅退院できるよう折り合いをつける事が重要であると理解できた。</li> <li>・病院における支援システムや視点を学び、自施設での課題を明らかにすることができた。</li> <li>・訪看との連携の実際が想像できていない。今後の訪看実習で学びを深めたい。</li> <li>・加算の部分が難しかった。</li> <li>・在宅療養を支えるシステムやサービスは様々あるが、全部は理解できていない。</li> <li>・GWは話し合う時間や説明がもう少しあると、理解が深まったと思う。</li> <li>・看護師の役割は理解できたが、自施設の課題をしっかりと明確にできなかった。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">評 価・総 括</p>	<p>○目標達成の評価 <b>【研修会の目標は達成した】</b> 達成しなかった</p> <p>アンケートより理解度、達成度・習熟度ともに99%であり、地域連携や包括ケアシステムを学べたという意見が多かった。また、地域や入退院支援を学ぶことで自身の課題や役割を認識することができ目標は達成できた。</p> <p>○総括</p> <p>全日程を通し学ぶことで、知識や実践を身につけ最後の講義で総括されていることがうかがえた。また、講義だけでなく実習を経験することでより深い理解につながっている。地域と病院をつなぐカリキュラムで構成されており、看護師として広い視野をもち、多職種連携の重要性を学ぶことができるため今後も継続する必要がある。</p>
<p style="text-align: center;">課 題</p>	<p>入退院支援は、病院、施設、在宅をつなぐ重要な支援であるため、今後も広い視野をもつためにも必要な研修である。しかし、受講申込病院の固定化や、受講者の伸び悩みが懸念される。日頃関わる職員や訪問看護ステーションの職員の参加が主であるが、これからは看護師1人1人が入退院支援の観点を一層求められる時代になっていく。それらを踏まえ病棟看護師、外来看護師にも積極的に参加してもらえるよう、各病院の看護部長、地域連携室等に広く研修のPRをしていく。</p>
<p style="text-align: center;">担当者</p>	<p>訪問看護推進委員会</p>